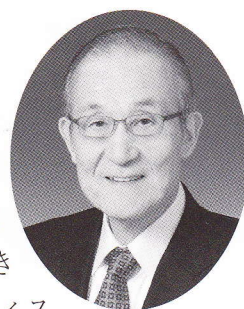


発行・編集 (公財)あしたの日本を創る協会／全国生活学校連絡協議会 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町7番1号 日本青年館
TEL: 03-5772-7201 FAX: 03-5772-7202 E-mail: ashita@ashita.or.jp URL: http://www.ashita.or.jp/

生活学校運動50年を迎えて

公益財団法人あしたの日本を創る協会会長 茂木 七左衛門



日ごろより、全国各地で住みよい地域づくりに熱心に取り組まれている全国の皆さまに、心からお礼を申し上げます。

生活学校運動は本年で50年目を迎えました。生活学校が発足した昭和39年は、新幹線が開通し東京オリンピックが開催されるという戦後の経済成長を象徴する年でしたが、同時に急激な都市化と大量生産・消費社会の到来に伴う社会のひずみが浮き彫りになった時期でもありました。

こうした情勢の中、身近な生活課題、地域課題を取り上げ、関係者との対話により解決するという手法、また、女性の社会参加を進めるシステムを取り入れた「生活学校方式」を、メンバーはじめご関係の皆さまが努力を積み重ねてつくり上げてきました。この活動の仕組みは、社会に大きなインパクトを与え、生活学校の輪は瞬く間に全国に広がってきました。

50年の活動のなかでは、その時代、また地域の状況をふまえ、「無添加食品の開発や買い支え」「休日・夜間診療体制の整備」「食品トレーの削減」「空き缶の飲み口のステイオンタブ化」「禁煙車の

導入」「資源ゴミの分別収集」「地域における高齢者や学童の見守り体制」などの多くの成果をあげ、全国に波及していきました。さらに、「コミュニティスクールへの参画」「商店街の活性化」「指定管理の受託」などにも果敢に取り組まれています。

また、最近では、全国のメンバーが連携した活動として、「レジ袋削減」「東日本大震災被災地の復興」を全国共通テーマとして取り組み、それぞれ環境大臣や内閣総理大臣の表彰を授与されるなど、高い社会的評価を得るまでになっております。

生活学校をめぐる環境も大きく変化しています。人口減少と国・地方自治体の財政逼迫といった社会情勢は、私たちの暮らしや地域に大きく影響してくる問題です。そこで、これまでの活動を再確認していただき、社会の変化をとらえた「新しい地域課題」に取り組むことが必要です。発足以来の生活学校運動の経験にぜひ自信を持っていただき、これからも生活学校が各地域でその役割を果たしていかなることを期待しております。



生活学校運動50周年関連事業について

生活学校運動が今年で50周年を迎えるにあたり、記念事業を行います。

①生活学校運動50周年記念誌の発行

生活学校の50年の歩みを年表等で紹介します。県生活学校連絡会の代表者の方にコメントをいただき掲載することにしていきますので、ご協力をお願いします。

②生活学校運動マニュアルの発行

生活学校のこれまでの歩み、活動手法、当協会と生活学校運動の関係等の説明冊子を作成します。生活学校のリーダー層およびメンバーに、生活学校運動について日常的に確認してもらえるようにするものです。

③長期運動実践者の顕彰

永年に渡って生活学校に係り、現在も活動している主体メンバーを「特別功労者」として、全国で数名の方を対象に顕彰する予定です。

生活学校運動マニュアルについて

持ち運びのしやすいA5判サイズの冊子です。生活学校の皆さまから寄せられることが多い疑問点について、Q&A形式で簡潔にまとめました。生活学校の活動の際にお持ちいただき、お悩みの点があるときに、確認していただければ幸いです。

収録内容

1. 生活学校運動の発足の経緯、これまでの活動と成果
2. 生活学校の活動手法（事前調査、対話集会、事後活動など）
3. 活動や運営に関わるメンバー、構成人数
4. メンバーのふやし方、勧誘方法、若い世代の参加
5. 代表（委員長）後継者の育成
6. 会計処理や書類作成などの運営面、活動経費のねん出方法
7. 活動テーマの設定
8. アンケート調査の設問作成
9. 講師・助言者を探すには
10. 対話集会の持ち方、企業や行政への出席依頼
11. 同じテーマに取り組む生活学校や他団体との情報交換・連携
12. 地元自治体との連携方法
13. 生活学校の活動を地域にPRするには
14. 生活学校運動の他団体と異なる特色
15. 「新しい地域課題」はどのような活動か
16. あしたの日本を創る協会からの活動助成、情報提供
17. 生活学校運動推進等の顕彰制度
18. 生活会議はどのような団体か。生活学校と生活会議の連携等

新しい地域課題の取り組みに向けて

あなたの地域は大丈夫？人口減少問題を考えてみましょう！

いま、日本の人口減少が大きな問題となっています。先日、民間有識者団体の「日本創生会議」が、今後の人口減少によって、2040年までに全国1800自治体の約半数が消滅危機にあると推計を発表しました。県庁所在地や東京23区の区部も含まれています。これには、地方から大都市への若者流出を防ぐことと、出生率を現在から引き上げることが必要だと指摘されています。

このまま放置すれば、私たちの暮らしに大きく関わります。町の機能に支障をきたして、医療や介護などの社会保障の質が下がります。

そこで、①自分の住む自治体の人口と将来の推計、②人口減少に対応した自治体の施策について調べてみましょう。その上で、生活学校・生活会議の活動として、将来の人口減少をにらみ、子育て支援や若い人の定住促進など、地域を若い人にとって暮らしやすく、魅力的な場にしていくための活動に取り組んでいきましょう。

■ 震災復興支援全国運動の報告

この度の復興支援全国運動では、皆様方の善意に満ちた行動力と温かいお心に触れさせていただきまして、まだまだ善意の中で生かされているということに感謝の気持ちでいっぱいです。

一生懸命義援金を集めてくださった方、その大切な義援金ですから差し上げる先も真剣に考え、選んで、温かい心を添えて持参してくださった方、夫々のお立場で大変ご苦勞をお掛けいたしました。なお、26年度になってからもお送りくださった団体がいくつかございますので、もう一回差し上げることが出来そうです。その節はまたお世話をおかけ致しますが宜しくお願い申し上げます。

また、「ひまわりアクリルたわし」販売運動では、皆様方のお力で当初の販売予定数をはるかに超えることができました。仮設住宅で編んでいる方々も日増しに笑顔を取り戻されていることが何よりですが、この運動に関しましては、「消費者利益の擁護及び増進のための支援活動に積極的に尽力した」ということで、平成25年度消費者支援功勞表彰の内閣総理大臣表彰を受けました。これは全て皆様のものです。

1. 義援金

(1) 協力団体数・金額

	団体数	合計金額
平成23年度	98	357万3,958円
平成24年度	59	197万2,607円
平成25年度	37	87万2,516円
平成26年度	3	5万5,192円
合計	197	647万4,273円

※団体数については延べ数

(2) 届け先県別内訳

	箇所数	合計金額
岩手県	10	100万円
宮城県	25	230万円
福島県	16	160万円
茨城県	3	40万円
合計	54	530万円

※仮設住宅自治会等へ地元生活学校メンバーが直接届けた

2. ひまわりアクリルたわし (H26.6.16現在)

	24年度		25年度		26年度		累計	
	団体数	販売数	団体数	販売数	団体数	販売数	団体数	販売数
生活学校	225	28,556	129	13,680	20	1,502	374	43,738
生活会議	26	2,630	6	470	1	30	33	3,130
一般	36	3,701	52	5,347	5	480	93	9,528
合計	287	34,887	187	19,497	26	2,012	500	56,396
宮城県直売								5,135
総合計								61,531

※団体数については延べ数

25年度の生活学校分のうち協会直接販売数1,210
作成者への作成代 累計：約736万円

復興支援 ～福島県民支援活動～

東日本大震災からの復興を目指して、全国各地の生活学校では、全国運動「ひまわりアクリルたわし販売活動」をはじめ、義援金の贈呈や仮設住宅への訪問・交流活動などに取り組んでいます。独立行政法人福祉医療機構の平成25年度社会福祉振興助成事業を受託して、全国4か所の生活学校が活動主体となり、福島県内において仮設住宅住まいを余儀なくされている方、また福島県外に避難されている方々に対して支援活動が行われました。その概要を紹介します。

1. 福島県・小野町生活学校の活動

小野町生活学校では、福島県三春町の「貝山仮設集会所」はじめ、福島県内4か所で交流活動を実施。各回約20人が参加。葛尾村から避難された方を訪問し、生活学校メンバーがお土産品として、手作りの梅干、白菜、じゃがいも、カボチャ、米糰などを持参して大変喜ばれました。また、小野町に避難された方に声かけして、地元の老人会や踊りの会にも参加を呼びかけました。

2. 東京都渋谷区・初台生活学校の活動

初台生活学校では、葛尾村住民が避難されている福島県三春町への訪問活動を平成23年度から続けています。今回は、2日間の日程で、「葛尾小学校三春校」「過足団地仮設住宅」への訪問・交流活動を行いました。参加者は2日間で約60人。

小学校の放課後子ども教室では、子どもたちと一緒にマイバック作り。仮設住宅では、指編みでマフラー作りを行い、実用的なので人にも教えたいと大

変好評でした。また、鹿児島県の生活学校から「自分たちは現地まで行けないので、手作りの手袋を被災者の方に渡して寒い冬に役立ててほしい」と託されるなど、全国の生活学校のネットワークを活かした支援活動を行うことができました。

3. 栃木県・那須塩原市生活学校による活動

那須塩原市生活学校では、那須塩原市内に避難されている方を対象に交流会開催や訪問活動を行いました。交流会は、市内の公民館等を会場に3回開催。毎回約50の方が参加。メンバーが手作りの料理をふるまい、レクリエーションなどを実施。訪問活動では20軒の避難者のご自宅を訪問し、日常生活上の相談や悩みを伺いました。

4. 大分県生活学校連絡協議会による活動

大分県生活学校連絡協議会では、大分県内各地に避難されている方を対象に、交流会開催や訪問活動を行いました。交流会は、中津市、杵築市、大分市の3か所で開催。被災状況や現在の生活の悩みについて語り合い、メンバーが楽器演奏や民謡を披露し、合唱を楽しみました。訪問活動では、大分県内各地の避難者の自宅や公民館等19か所を訪問し、日常生活上の相談や話し相手になりました。

これらの活動を通して、避難された方からは「被災者同士の輪を作ることができたのでありがたい」「悩みによっては、仮設住宅の近所の人に話づらいことも、生活学校メンバーならば相談しやすい」といった声をいただきました。

ファミリーコスロン



交換用フィルター
(30個) 1,000円

油を捨てない
オイルポット

ファミリーコスロン
(フィルター10個付) 3,500円

油をムダなく使う道具

使い方簡単：少し冷めた油を入れ
継ぎ足し使用するだけ

静岡県生活学校連絡協議会が
推進しております

<連絡先>

平松 節子

TEL 053-461-6966

FAX 053-461-6969

<http://www.rakuten.co.jp/marugo/info.html>